

対応状況報告書

大 学 名：鹿屋体育大学

評価実施年度： 令和3年度

報 告 年 度： 令和6年度

対象となる基準	基準5－3
改善を要する点	○ 体育学研究科修士課程のスポーツ国際開発学共同専攻において、実入学者数が入学定員を大幅に下回っている。
対応状況	体育学研究科修士課程スポーツ国際開発学共同専攻において、入学定員充足率を改善するため、以下の入試広報に取り組んだ。 ①オンライン個別相談会の随時開催 ②体育系、教育系、国際系の学部がある大学にパンフレットやポスターを送付 ③青年海外協力隊相談役への情報提供 ④国際キャリア総合情報サイトへの入試情報の掲載 令和2年度から令和6年度までの5年間における入学定員充足率の平均は47%であり、現時点で改善された状況にあると判断できない。 しかしながら、令和6年度の入学定員充足率は100%であることから、今後も上記の取組を行うとともに、新たに在学生・卒業生のインタビュー動画を使用したプログラム紹介等の様々な入試広報に取り組むことで、入学定員充足率の改善を目指すこととしている。

(注)

1. 機構で受けた大学機関別認証評価において、「改善を要する点」として指摘された事項の対応状況について記入してください。
2. 「改善を要する点」には、評価結果報告書の「Ⅱ 基準ごとの評価」の【改善を要する点】に記載された内容をそのまま転記してください。
3. 「対応状況」には、「改善を要する点」として指摘された事項に関して改善された状況の具体的な内容及びその改善を実現した取組について、根拠資料・データ等とともに「対応状況」欄に記入してください。
4. 根拠資料・データ等は、その名称を記載のうえ、別添として添付してください。評価結果の追記公表の際に併せて公表しますので、資料番号については、既存資料と重複しないよう、既存資料の資料番号以降の連番としてください。

5. 評価を受けた年度の翌年度を一年度目として起算した場合の三年度目の6月30日までに改善していると判断していない事項については、対応状況欄にその旨のみを記載してください。